

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	風の子びれっじ鎌倉(単位1)			
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 8日		～	令和 8年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)	21名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 16日		～	令和 8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 25日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな活動を実施し経験値を高めたり積むことができる。	創作活動で手指を使った工程を入れたり、クッキング等の調理を通しての食育、お買い物練習やお出かけを通してお金の支払い練習やお店や公共施設でのマナーを学ぶ機会を作っている。	ご家庭でできない経験を積めるよう活動内容が常習化されないよう定期的に変化を持たせ工夫を行っている。
2	敷地内に広場があるため、余暇時間や活動などで活用する環境が整っている。	余暇時間に鬼ごっこをしたり、走りまわり身体を動かす時間を提供している。また活動で、リレーやサーキットのプログラムを実施している。	外で遊べる遊具(用具)を増やす。活動で使用できそうな物品も用意し、活動内容の幅を広げる。
3	小学1年生から5年生をメインとしたクラスであること。	他児との初歩的なコミュニケーションの取り方や手洗いやうがい、宿題を行う、始まりの会を通してその日の流れを集団で確認を行うなど生活習慣を確立する機会を設けている。	個々の特性や理解度に合わせて視覚的アプローチやトークンシステムの活用を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	遊びや活動の幅が制限される場面がある。	特別支援学級に通うメンバーさんから特別支援学校に通うメンバーさんまで様々な障害特性や障害区分のメンバーさんが通っており、マンツーマンでつかないといけないメンバーさんが多い場面や空間分離だけでは対応が難しいことがある。	常に「遊べない」「できない」状況をつくるのではなく、できる時間(曜日)や環境設定を行う。
2	「ペアレントトレーニング」等、家族が参加できる研修の場を提供できていない。	支援に対する個別アドバイスは行っているが、職員がペアレントトレーニングの研修参加ができておらず、ペアレントトレーニングを行える体制が整っていない。	ペアレントトレーニングの研修や勉強会に参加していく。
3			